

当検査室におけるインシデント発生予防を目的とした環境整備

◎古屋 佑真¹⁾、成清 羊佳¹⁾、大石 彰太¹⁾、小林 隆樹¹⁾、介川 雅之¹⁾、国仲 伸男¹⁾
国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院¹⁾

【はじめに】病理検査室で発生するインシデントで最も多いとされている事例は、検体取り違いや検体紛失である。病理組織検体は、提出後に検体処理・自動固定包埋装置での処理・包埋・薄切・染色等様々な工程を経て標本が完成する。以前は、インシデントが発生しても各工程での検体の状況が確認できず、対策として目視確認を増やせざるを得なかった。今回、インシデントを予防するために各工程での業務を可視化できるように導入したカメラシステムおよび生検検体とカセットの自動マッチングシステムを導入したので報告する。

【取り組み】(1) カメラシステムの導入：インシデントの発生しやすい工程は、①生検検体をカセットに入れる処理、②カセットのフタ開けから包埋作業までであることから、生検処理を行う安全キャビネット内と包埋センターの上に動画および静止画の撮影が可能なカメラを設置した。(2) 生検検体とカセットのマッチングシステム：生検検体容器に貼られたバーコードラベルとカセットに印字されたバーコードの一致を病理部門システムにて確認できるようにし

た。更にマッチングを完了した日時、作業者の記録が残るようにした。

【結果】①生検処理と包埋時の検体情報（性状・個数等）に齟齬が生じた際に、生検処理当時の状況確認が可能となった。②1検体1処理を徹底しているため、このマッチングシステムにより検体のカセットへの入れ違いを防ぐことが可能となった。また、当検査室では1日に約200個の生検処理を行うため確認業務が効率化されたことにより生検処理業務全体の効率化につながった。

【事例】カメラシステム導入後に、2つの検体が重なってしまっていたことにより包埋時に検体が1つ紛失してしまったと思われた事例があった。しかし生検処理時の検体数が確認できたためにインシデントを回避することができた。

【まとめ】今回紹介したシステムは、病理検査室で多く起こりうるインシデントの発生を軽減する非常に有用な対策と考えられた。

連絡先：04-7133-1111